

# 植物と人々の博物館メールマガジン

第 110 号 2024 年 5 月 3 日発行



~~~~~

このように書き出したのに、1月が過ぎてしまいました。桜が満開、鶯も鳴き始めました。不安定な気象に翻弄されながらも、自然は巡り続けています。1週間が1日のように感じられるように飛んでいきます。現在は、バラ、クレマチス、ハナミズキ、ユズなど多くの花々が一斉に咲きました。通りすがりの人々が絶賛してくださり、幾人かがスマホの待ち受けに下さっています。糠を与えているだけですが、同じ品種でも倍の大きさの花が咲きます。

植物と人々の博物館は今後も継続します。2024年にも社会的共通文化財である標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開したいです。ご利用くださり、整理も一緒に手伝っていただければありがたいです。

## 1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日：5月は中旬から、原則月曜日 10:30~14:10 に開館します。この間に、さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。ご協力いただける方であれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整してご案内します。

担当 木俣 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

主な作業：

- ①書籍・資料の整理
- ②民具の整理
- ③展示の企画：たとえば、タイの民具、自然文化誌研究会（学大探検部）50年記念
- ④植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、
- ⑤その他

## ○報告

民族植物学ノオト第17号は2024年3月末に発行しました。4月5日に植物腊葉標本整理をしました。秋子さんの息子さんにお会いしたところ、旧船木民宿離れは残してあるので、いつでも使ってくださいとのことでした。母屋は壊してしまったので、キャンプもできるそうです。

4月20日に黒澤さんが木俣文庫の運搬（2回目）をしてくださる予定でした。忙しくて延期になりました。小説など1000冊は廃棄し、食文化関連の書籍を整理しました。次は植物学関係の書籍、最終的には、海外調査で収集した書籍を整理します。森

とむらの図書室は総計 8000 点ほどの資料・書籍になると思います。

4 月 24 日に日本環境教育学会の秦さん（副会長）が学会創設時の資料調査で、小菅に来てくださいました。自然文化誌研究会は日本環境教育学会及び雑穀研究会の創立時事務局をしていたから、当時の資料を整理して、残してあるからです。貸し出しました。pdf 化して学会のホーム・ページで公開するそうです。有効利用していただいでうれしいです。

また、東京農業大学の河瀬さんに雑穀収集データベースを提供、大阪学院大学の竹井さんに中央アジア調査のスライドを貸し出しました。ちなみに、50 年間の国内外の調査記録スライドなども小菅に移動しています。4 月 28 日はとてもさわやかな新緑の武蔵野公園にて、今野家主催の芋煮会は 15 名余りの参加で、楽しく歓談しました。

5 月 2 日に、東京学芸大学の小柳さんに彩色園の様子などお話を伺い、環境教育学会での課題研究について相談しました。

## ○予定など

1) 民族植物学ノオト第 18 号は 2025 年 3 月末に発行する予定です。年内にご寄稿ください。また、自然文化誌研究会創立 50 周年の特集を加える予定です。これまでの記録集を整理しておきます。編集子は「希望と祈り」（仮題）で信仰論を書いてみたいのです。すべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。意外に相当数の方々が読んでくださっています。

<https://www.npo-inch.ppmusee.org/goods.html>

## 2) 電子書籍：

編集子の自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は、第 12 章改訂、中央アジア諸国からアフロアジア地域をやっと公開しました。この地域には東京学芸大学中央アジア学術調査隊（1993 年）、1997 年、2004 年にも調査に行きました。連休中にデータベース化してフィールド・ノートをすべて公開したいと思っています。主課題の第 4 章～第 8 章までインドの雑穀農耕文化複合をまとめていきますが、同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40 年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々との対談テープの文章化を始めました。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。また、50 年の研究成果の概要をまとめとして“Essentials of Ethnobotany”を準備しています。

3) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業（ndl.go.jp）で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています。すべての記事は無料で公開しています。ここに保存されている記事は記録として残りますので、ありがたいです。

4) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

井堂さんからはご論文や雑穀、小金井関係の書籍、秦さんからは『SDG s と社会教

育・生涯学習』をいただきました。うかたま、現代農業、Ecoplus 会報、お米の勉強会会報、環境教育学研究第 33 号を寄贈いただきました。西川至先生の留保分約 100 冊を遺言により、西川文庫に追加寄付いただきました。感謝申し上げます。

### 5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。植物と人々の博物館への寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願ひします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として保存・公開するために、費目指定で寄附をいただけるとありがたいです。ご希望の方には自給農耕ゼミ（佐野川）で有機無農薬により栽培したキビなどを精白／製粉して適量をお礼に差し上げます。これまでに、多くの方にご寄附を頂き、感謝しています。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

### 2. 自然文化誌研究会

○予定 詳細は下記ホーム・ページをご覧ください。

4 月 21 日は茶摘み（東京学芸大学彩色園）、5 月は村祭りキャンプ（小菅村）、7～8 月は冒険学校、タイ・日本クラブキャンプ、などを予定しています。

### 3. 雑穀街道普及会： 閉会解散

この 10 年間の経緯の詳細については、「雑穀街道普及会の顛末書～大きな感謝と少ない謝罪」を民族植物学ノオト 17 号に書いて、詳細記録を残しました。

<https://www.milletimplic.net/milletsworld/milletstrasse/milstfinal24.pdf>

雑穀街道普及会は解散しましたが、下記ホーム・ページにアーカイブを公開しておきます。これらは国会図書館のデジタル事業に登録しているので、記録は残ります。

<https://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

参考動画 詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

[雑穀街道を FAO 世界農業遺産に - YouTube](#)

[【報告】FFPJ 連続講座第 21 回：日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか - ニュース レポート](#)

FAO 国際雑穀年ウェブセミナー第 2 回 日本の雑穀小史 木俣報告

[The historical sketch of millets in Japan](#)

[雑穀街道普及会説明会（2023 年 9 月最終集会）映像；梶間陽一氏制作](#)

<https://www.youtube.com/watch?v=TF8hdpFPeOg>

「縄文からの伝言」<https://youtu.be/6WqeAAiyhqw>

資料：<https://www.milletimplic.net/university/farming/grain3fnal.pdf>

### 4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。

主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.millemplific.net/university/civicues.html>

## ○ 報告

### 1) 第39回泉龍寺仏教文庫講座（狛江）

雑穀、生き物の文明への移行～人新世の希望はここにある

日時：2024年3月9日（土） 40名以上の参加で、感想は高評価でした。

場所：泉龍寺仏教文庫 2階 講義室。狛江駅のすぐ近く。

後援：狛江市教育委員会

講義資料：[www.millemplific.net/university/pelcivicuu/livecultras2.pdf](http://www.millemplific.net/university/pelcivicuu/livecultras2.pdf)

狛江市は小菅村と連携協定を結んでいます。学大も小菅村と社旗連携協定を結んでいます。いずれ、講演記録ができます。

### 2) 自給農耕ゼミ（佐野川）

① 収穫した穀物は木俣が預かっています。適宜、精白、製粉して、参加者の方に差し上げます。

② 今年、雑穀栽培を始めたい方には種子を差し上げます。今が播き時です。ご連絡ください。 連絡先：[kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp) 木俣

③ 今年も宮本茶園の雑穀畑は継続しますので、種子継ぎなどの作業にご協力ください。作業予定などの連絡先は宮本さんです。

[kwangjuul1980@yahoo.co.jp](mailto:kwangjuul1980@yahoo.co.jp) ご連絡、ご参加をお待ちしています。

## ○ 予定

植物と人々の博物館は今後も継続します。標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、展示も再開します。お手伝いいただければありがたいです。

<https://www.millemplific.net/milletsworld/millstr.html>

1) 今後の計画について検討しています。博物館研究員の学びを中心に、一般参加希望者には一部公開 zoom の方向で、環境学習セミナー（第41回）を再開する案が出ています。

### 2) 第35回日本環境教育学会大会

日時：2024年8月29日～9月1日

場所：江戸川大学

学会創業者（編集子）の遺言として、1年だけ会員に戻って、「環境学習原論一心の構造と機能」を一般口頭発表（8月31日か9月1日）で行う予定です。また、できれば自主課題研究（9月1日）も応募してみたいです。人新世における自己家畜化に抗い、生き物の文明へと移行するために、根底的な生活様式の実践哲学として ELF 環

境学習過程を提案し、日本社会を復興する希望を述べたいです。若い方たちに直接話して、反応を見たいです。

<https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601>

~~~~~  
**植物と人々の博物館** (山梨県小菅村) :

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男 (東京、専任研究員、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ヴェトナム)、大澤由実 (神奈川) ほか

公式 HP：自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会** (山梨県小菅村)：代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

**自然文化誌研究会**：代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)  
事務局長：黒澤友彦 (山梨県小菅村)

~~~~~  
**編集子独り言**：

雑穀街道普及会の10年の活動に関して、率直に事実記録を残しました。心の痛みを伴う、少し辛い作業でした。これで言ったこと、やったこと責任は果たし終わりました。浮世離れした厳しい人生を、世間がどうあれ、気ままに生きてきたので、いよいよ平穏に遊び暮らす境地です。資料・書籍を小菅の植物と人々の博物館に移すために、整理しています。楽しく、いろいろ再発見しており、古守先生のお手紙や高校二年生の頃のエッセイも出てきました。園芸部員はすでに、植物の多様性保全を仕事にすることを求めているようで、三つ子の魂に順って、植物学を趣味、仕事、職業として生きてこられて幸せです。

**写真**

コゲラとフデリンドウ



最強の杖の素材ニワトコの花と子供たちの願い



三鷹市大沢のワサビ田、水田と神代植物公園のフジ

